

欧州に響け 農民オケ

道内の農家らでつくる北海道農民管弦楽団(牧野時夫代表)が2月13、14日(現地時間)、デンマークで初めての海外公演を行う。酪農学園大(江別市)の室内楽サークルのメンバーも加わり、総勢59人が参加。ユトランド半島中部のシルケボー市などで2回演奏し、牧野さん作曲の「北海道奇想曲」などを披露する。(余市支局 藤井正友)

同管弦楽団は1994年8月に結成。約70人の楽団員は、大半が畑作、酪農などの農業従事者、農業試験場の研究員、農協職員で、毎年1回、農閑期を利用して道内各地で定期演奏会を開いている。

デンマーク公演は、北大交響楽団のコンサートマスターを務めたバイオリン奏者牧野さんら楽団員と、デンマーク・オーフス市在住の大学教授、高井久光さんらとの交流がきっかけだ。牧野さんらが海外公演の受け入れ先を探していたところ、酪農学園大の特任教授でもある高井さんがデンマークでの開催を持ちかけた。酪農学園大の建学理念「三愛主義」(神を愛し、人を愛し、土を愛す)は、デンマークの国づくりの基礎となっており、また、さらには同大の教員や卒業生らの働きかけもあって実現にこぎつけた。公演初日は、シルケ



牧野時夫代表

酪農大教授が橋渡し

来月 デンマークで初の海外公演

ボー市内で地元管弦楽団との合同コンサートを開催。モーツァルトの歌劇「魔笛」序曲などに加え、北海道民謡やアイヌ民謡を取り入れた「北海道奇想曲」など日本の歌曲も演奏する。

2日目は、酪農学園大系列のとわの森三愛高校の生徒たちの酪農研修を毎年受け入れているオーフス市近郊のカロー農学校で行い、同校の学生や近隣の農家とも交流を深める。楽団員は、ほぼ半数が札幌と近郊、残りは道内各地に散らばっているが、週1回、札幌市内に集まって練習を



ら、デンマークと北海道との農業を通じた深いつながりを現地の人々に伝えたい」と話す。公演には、北海道農民管弦楽団最高齢の稲作農家高橋幸治さん(72)＝石狩管内当別町＝も参加する。

1月30日午後2時から江別市民会館で「国内プレ公演」を開き、デンマーク公演の演奏曲を披露する。問い合わせは、江別公演実行委員長 川原信太さん ☎090・6282・7108へ。

デンマーク公演を控え練習に励む楽団員たち＝23日、札幌市西区「ちえりあ」